

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人旭豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ライラック(東ユニット)		
所在地	旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	平成26年12月28日	評価結果市町村受理日	平成27年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体が医療法人なので24時間安心して適切な医療が受けられる。また、定期受診も主治医による訪問診療を受け、必要に応じて検査を受けることも行っている。
 ・盆踊りなどを通じて地域住民と交流する機会を設けている。
 ・空港や駅の見学外出、敬老会、お好み出前昼食、花見、紅葉ドライブや行事ボランティアの訪問等も取り入れて利用者様に一年を通して楽しんで頂けるよう取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年1月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<職員の就業環境の整備>
 職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、希望休暇の取得や労働時間、託児所の設置や働きやすい勤務体系など職場環境・条件の整備に努め、職員の勤務年数が長く、継続したケアサービスを提供し、本人・家族からの信頼が厚いことがアンケート結果からも伺える。また、職員間のチームワークも良く、母体医療法人と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。
<戸外に出かける支援>
 新しくなった旭川駅や旭川空港見物、花見や紅葉等のドライブ、買い物や近隣への散歩、中庭での外気浴など気分転換や普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握しながら戸外に出かけられよう支援している。また、盆踊りや敬老会など地域の人々と触れ合える機会も提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や方針を各職員室に掲示し、また、ネームの裏にも入れるなどいつでも目に入る環境を作り、意識できるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、職員個々が携帯し、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事などを聞き、今後参加していこうとしている段階。法人全体としての盆踊りなどでの交流は行っている。	町内会行事参加や事業所の「ライラック祭り」開催等で家族や地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や入居の相談時などに認知症のことや関わり方について伝えるようにしているが、今後も貢献できる方法を探っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の開催を出来ておらず、今後の課題とする。会議では、行事や消防訓練の際に参加してもらい、いただいた意見を次回に反映できるようにしている。	運営推進会議では、利用状況や消防訓練等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後は、運営推進会議を定期的に開催できるように年度計画を立てているので、その実践に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告や、不明な点があった際に問い合わせることはしているが、積極的に関係が気づけるような取り組みは行っていない。包括が主催する打ち合わせ会には定期的に参加している。	市担当者とは、日常業務を通じて相談や助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の抑制防止委員会や研修で身体拘束について学び実践している。玄関の施錠は夜間のみ行い、日中は無断離棟の恐れのある方が落ち着かない時等に自動ドアを手動にしたり、ユニットドアの鍵を閉める場合がある。	抑制防止委員会で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修は参加できていないが、接遇などに絡めた、入居者を尊重する関わりについて勉強する機会を持っている。日頃から不適切なかかわり方が無いよう注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで制度について学んだことはあるが、現在利用している方はおらず、今後必要になった時には包括などと連携を取りながら制度の活用について支援したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項や利用規定を説明し、不明な点などを残さないように同意を得てから契約をする様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前はアンケートを行っていたが、今年からできていないため、今後どのようにしていくのか検討していく。面会時には積極的に会話の機会を持ち、いただいた意見に対応するようになっている。	個々の家族等に健康状態や生活の様子など詳細に情報提供し、意見や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見を運営に反映させている。また、本人・家族からの信頼が厚いことがアンケート結果からも伺えた。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送り時や月に一度のミーティング時に話し合うことや、連絡ノートを活用して意見が出せるようにし、実践に役立てている。	職員の勤続年数は永く安定したケアサービスを実践している。また、連絡ノートの活用や日々の業務を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが突然休まなければならない事態になっても柔軟に変更が出来ることで安心感が得られている。やりがいについては職員それぞれの特技を生せる場面作りを行うようになっているが、今後も取り組んでいきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加の機会を設けている。今後は新人や中堅などレベルに合わせた内部研修についても取り組んでいきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括が行う永山地域のグループホームの打ち合わせ会に参加し、意見交換をしたり、他施設訪問もさせてもらっている。その内容をホームに帰りスタッフに報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人や家族に見学に来ていただき、施設やサービスの説明を行い、生活環境や不安なことなどを聞きだし、ここで出来る対応について伝えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、見学や相談に来られた段階で、施設やサービスについての説明を行い、ご本人の対応で困っていることなどを聞きながら、ここで出来る対応について伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話し、通院の希望があった方にはヘルパーサービスの利用支援をするなど、要望に応じて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を生活の一員とし、食事も盛り付けや洗濯物干し、たみ片づけ、新聞を取りに行くなどそれぞれの入居者に合った内容で活躍してもらるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時には、都度状況報告を行い、毎月送るお便りにも写真入りで記載している。外出泊でも困らない様、介助の仕方を伝えたり、行事への参加を募るなど本人の状況がわかるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪を受け入れ、電話なども取次ぎ、家族のお見舞いに行く支援をしている。外出先もむかしの思い出の場所や懐かしい場所に行くよう支援している。	花見や紅葉ドライブ、旭川駅や空港見物、自宅訪問や以前住んでいた場所へのドライブ等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見ながら気の合う方同志での交流を促したり、気の合わない方同志は、食事の席の配置に気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にご家族にいつでも相談して下さいと伝えることや、入院された場合には、病院からの要望に応じ情報提供や面会に行くなど関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状況を見極めながら、好みや希望をくみ、読書や塗り絵、歩行運動などをしたり、生活の流れも本人のペースを尊重して行っている。	一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、お花や畑づくり、調理の味付けや買い物等の役割や楽しみごと、気分転換の支援に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族に生活歴を聞き、ご本人にも日頃の会話から聞くようにしている。また、今までの利用施設などからも聞き取りをして役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動的に過ごす事が好きか、一人でのんびりするのが好きかなどを見極め、お手伝い、活動への参加の量を加減し、それぞれの得意な事も出来る場面作りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どのように暮らしたいかについて、日頃から本人やご家族と話したり、スタッフと月一度の会議や毎日の申し送りでも話したことをプランに取り入れている。	本人・家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、モニタリングやカンファレンスで職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動できるよう、記録ファイルにケアプランを添付しそれに沿った記録を残す事や、関わりの中で試したことなどを残し、スタッフ間で共有し、流れが途切れないケアが出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診希望者にヘルパーやタクシーの手配をしたり、ご家族が高齢や遠方の方には買い物の代行をしている。また、家族への面会へ行く支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年行われる市主催の高齢者文化祭に作品を出展することを楽しんだり、行事として旭川駅裏の公園へのドライブで園内の散歩と駅での買い物を楽しんでもらった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人病院の主治医による訪問診療を受ける事や、特変時でもすぐ相談できるよう看護師を通して連携が取れている。また、他科の受診の際も、医師に状況を説明するなどスムーズに受診できるようにしている。	母体医療法人との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、看護師に体調を伝え、入居者に適切な受診が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師をパイプ役として、主治医や病院との情報交換や共有を行い、退院に向けての支援を行っている。しかし、日頃からの関係づくりは外来の看護師とは行っているが、病棟の関係者とまでは十分に行なえていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特変の合った検査結果などはご家族を呼んで、今後予測される状況を説明し、ホーム内で出来る事を伝え、関係者との連携を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、ノロウィルスなどに備え、定期的にホーム内で勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、避難方法についてその時々に入居者に合わせ検討している。冬はすぐに避難できるよう、ベランダの雪かきをしている。地域の方の参加も呼び掛けているが、毎回は出来ていない。	昼夜を想定した年2回の火災避難訓練を実施し、地域の人々にも参加を呼びかけている。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けなどは本人にのみ聞こえるトーンで行うよう気を付けたり、何かを始める前には必ず声をかけ、言葉遣いも選びながら対応している。	不適切なケアや接遇等の内部研修を通じて、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に表せない人は、日々の会話や行動の変化を観察し、思いをくみ取る事や、簡単な選択肢を示し決めてもっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おやつや体操など決まったものを全員に声掛けするが、参加の可否はその時の本人の希望を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の日と一緒に服を選んだり、髪が乱れている時には声掛けして整える支援をしている。男性には髭剃りする環境を整えるなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度をスタッフと共に、好みの味付けなどの会話を楽しみながら行ったり、盛り付けやテーブル拭きなどを行っている。	職員と一緒に盛付けや調理、食事等の準備をしている。また、お好みの出前屋食等で食事が楽しみなものになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて水分量も加減したり、食事は食べやすいように刻みの対応もしている。また、カリウム値の調整に野菜の加熱などの対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、自分で出来る方は見守り、介助の必要な方は支援している。義歯洗浄も毎晩行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら本人独自のサインを見逃さないように心掛けて、トイレでの排泄に集中できるよう支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況を把握し、水分摂取やエンシユアの飲用、運動など身体状況に合った方法で取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否のある方は声掛けの時間帯を考えるなど、一人一人のタイミングをみながら、時々入浴剤を入れるなど、お風呂を楽しんでいた。	拒否の強い本人や一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の状況や体調の変化を観察し、照明や室温を適切に調整したり、見回り時の物音などに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	温度版に個々の処方箋を一緒に綴じ、いつでも確認できるようにしている。また、新しい薬が処方された時には、内服方法や副作用まで確認し、スタッフに申し送り伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にスタッフと共に洗濯物たたみや掃除、ゴミ捨てに行ったり、一人ひとりが好む活動(テレビ、読書、塗り絵など)が出来るよう支援。また、花や野菜の手入れ、買い物など気分転換の支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から希望をくみ取って、花見ドライブ、空港、旭川駅見学などを企画し実施している。また、日頃から買い物や散歩、家族のお見舞いなども支援している。	新しくなった旭川駅や旭川空港見物、花見や紅葉等のドライブ、買い物や近隣への散歩、中庭での外気浴など気分転換や普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握しながら戸外に出かけられよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は紛失などのトラブルを避けるため、ホームで管理しているが、本人が買い物の希望がある時や行事の外出などでは好みのものを購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時はゆっくり話せるように子機を使用してもらい、手紙も書くことや出す事の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は刺激を避け、明かりの調整もこまめにしている。季節が感じられるよう、庭で摘んだ花を飾ったり、行事の写真を貼るなどし、居心地の良い空間作りを行っている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、中庭では花や野菜の栽培や共用空間では季節毎の飾り付けで季節感や生活感が感じられ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は個々の性格、関係性等を把握し配慮している。廊下にもソファやいすを置いて、いつでも使えるようにしているが、皆さん食堂にすることがほとんどで使用されることは少ない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷蔵庫やテレビ、小物など、本人や家族との相談の上持ち込まれ、本人が作成したものを飾るなど、居心地良く過ごせるよう空間作りを行っている。	居室には、冷蔵庫やテレビ、使い慣れた家具や寝具類等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、廊下に手すりがついている。トイレ、ふろ場、食堂、個々の居室前に看板などの目印を付けている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団 旭豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ライラック(西ユニット)		
所在地	旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	平成26年12月28日	評価結果市町村受理日	平成27年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体が医療法人なので24時間安心して適切な医療を受けられる。また定期受診も主治医による訪問診療を受け、必要に応じて検査を受ける事もおこなっている。
 ・盆踊りなどを通じて地域住民と交流する機会を設けている。
 ・花見、敬老会、紅葉ドライブや行事ボランティアの訪問等も取り入れて利用者様に1年を通して楽しんで頂けるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんがゆったりと暖かい毎日が過ごせるよう理念に揚げ常にカードで携帯し、それを心がけた支援を行っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人全体で町内会に入っており、運営推進会議や避難訓練の参加、回覧板での町内やホームでの行事案内をお願いしている。また高齢者文化祭、七夕まつりのくす玉作りに参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でグループホームでの生活内容や認知症のこと、感染予防の対策などを提示し、理解していただいている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はまだ2回しか開催できておらず、定期的な開催に向けた取り組みが必要		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	それほど密ではないが、必要なことに応じ事故報告や会議、研修での不明点を確認している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束についての委員会があり、拘束のないケアの重要性や拘束につながっているケアは無いのか勉強会や振り返りを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料などをいつでも職員が見れるようにしている 研修会に参加し、その内容を会議で報告し全職員が虐待について学ぶ機会を持つようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加した管理者を中心に、必要な方には活用できるように準備している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面接や入居契約時など時間を充分にとり説明し、不明点を残さないようにしている。また入居後も不明点などあればいつでも聞いてもらえるよう伝えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、利用者、家族へのアンケートで意見の収集をし、具体的に役立てている。また日頃からも会話の中で出る要望などを反映している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や申し送り時を活用して意見を聞くようにし、取り組めるものから検討を行うようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を見たり、管理者から伝える内容で把握してもらっている。また法人主催の催しで楽しめたり研修でも知識を深める機会が持っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内を職員全員が見れるよう回覧。またミーティング時に勉強会を行い学習の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修会へ参加したり、顔合わせに施設長が出席する等で交流をもっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に会える方は少ないが、ご家族やケースワーカーより情報を得ると共に入居直後にもゆっくり話を聞くよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居相談の時に話が出来る場を設けている 不明な点はいつでも連絡がもらえるよう伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し、相談しあう中でニーズを把握し、提供できるサービスを提案し進めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご飯支度や畑仕事等日常生活の中で、知恵を教えてもらったり、助けて頂いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に在宅中の様子を聞いたり、ホームでの状況を伝えるようにし、家族の希望や、こちら側の現状を理解し合えるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域へのドライブや、買い物等も以前利用していたスーパーへ行く等の支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席などを配慮するとともに、利用者同士が共通して好む活動を考え、利用者同士でも楽しめるように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の訪問も快く迎えている また移った施設への情報提供を行い利用者の生活が安定出来るよう支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向に沿えるよう、個別の趣味活動、希望時の自宅等へのなど支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や、入所後は家族から生活歴を教えてもらうなど把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の好みや能力などを把握したうえで、活動内容や時間を考慮し対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフ同士で話し合い、体調の留意点や生活上必要なポイントを取り入れ作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に取り組んだ結果等を記録し毎月のミーティングにて工夫したいことなど話し合いし継続したケアが出来るよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人病院と連携しニーズに合わせたサービスや往診、検査、リハビリが受けられるよう対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にボランティアの方に来て頂いたり、地域の七夕祭りや高齢者文化祭等に作品を出品し参加させていただいている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人病院との連携をとり隔週で往診を受けている 担当看護師も毎日利用者の体調を確認し、急変時にもスムーズに対応できている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で担当看護師が毎日来てくれ、日々の状態観察や健康管理、主治医との連携を図ってくれるため必要時に迅速に対応できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や入院機関と情報交換、話し合いを行い退院後の体制について検討するなど適切に行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に24時間体制で病院と連絡がとれることを入所時に説明 重症化した時にもご本人や家族、病院と話し合い対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って対応できるよう勉強会をしている、急変時は病院と連携を取り、指示を仰ぎ対応している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練があり、利用者のみならずもまじえて行っている。その後にミーティングも行い、反省点やより具体的に動けるよう、方法の改善をしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活環境をふまえて、言葉を選んだり、プライバシーに関する話は個人の居室に行き話すようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の心情を理解し、それぞれに合わせた声の掛け方や話しやすい環境を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に考慮し、それぞれの生活ペースに合わせて、活動や休息時間が過ぎるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問理容を利用し、自分の選んだ服を組み合わせたたり、季節感にあった服装が出来るように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けや食事を楽しみになるように心掛けている。食器拭きや調理の手伝いも一緒にしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下の状況に応じた食形態の工夫や、嗜好に応じて代替え食での対応もおこなっている。飲み物も何種類か用意したり、水分チェックで水分量の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には毎食後声掛けや、介助の必要な方にはその都度対応している。また、定期的に洗浄剤にて消毒するようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けることにより、排泄パターンを把握したり、尿意のサインを見逃さないように努めている。排泄失敗時にも羞恥心や自尊心に配慮を心がけている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけて確認しているので起きがけに冷水や牛乳を飲んで頂き、なおかつ便秘が続くようなら、便秘薬を服用し排便を促す		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調を考慮し、風呂の順番もタイミングにより入れ替えたり、曜日の変更なども実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具などで体温調節をしたり、一人ひとりに合わせながら、なるべく静かで休息しやすい環境作りに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の処方箋には都度目を通すようにし、看護師やスタッフと用法や考えられる症状について説明を受け、話し合いをし確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の出来る事を尊重した活動等で喜びや達成感を感じてもらっている。田畑を見る等で昔の生活を懐かしんでもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の天気や日ごろからの体調をみて、散歩や買い物、ドライブ等へ出かけられるよう心掛けている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っているが、外出時等は自分でお金を支払える楽しみが持てるよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときにはいつでも電話を利用して頂いており、手紙を書かれる場合は宛て名書きの介助や切手の購入、発送の手助けを行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下などは季節を感じられるよう利用者で作成した展示物や写真を掲示している。各居室やトイレ、浴室には札を貼り、わかりやすくしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下の椅子、中庭のベンチなどくつろげる環境作りをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室や廊下に個々の好みのものや、使い慣れたものを置き、生活しやすい空間作りを心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、手すりも備わり安全には十分考慮されているが、状況に応じ目印をつけることや介助をおこなっている		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催を2か月に一度のペースで行えていず、回数も6回に満たない	年6回の会議を開催していく	年度計画を立て、実行していく	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。